

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	接遇(講義)	学年・開講期	1年(前)
担当教員	本多寿子	時間数	2単位 30時間
目標	相手の立場を理解し、場に応じたコミュニケーションをとることができる		
授業内容(概要)	様々な場面を想定し、「コミュニケーション」「ビジネスマナー」を理論と実践を用いて習得する		
教科書	オリジナルプリント		
成績評価の基準方法	・実技試験(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B,69点~60点C,(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	第一印象: 第一印象の重要性を知る
2	自己把握・他者理解
3	言葉づかい: 敬語、場に応じた言葉づかい
4	きくとは: 聴き方、訊き方とは
5	説明力: 「言った」から「伝わった」へ
6	指示の受け方・報告の仕方
7	来客対応: 受付~取り次ぎ~誘導
8	患者対応: 診察室内での言葉がけ
9	電話対応: 取り次ぐ、不在時の対応、かける
10	電話対応: 実技
11	クレーム対応
12	メンタルヘルス: 感情のコントロール
13	話の構成: 話の組み立て方を知り、実践する
14	プレゼンテーション:: 準備
15	プレゼンテーション:: 発表(総合学習)

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	生命倫理・歯科医療倫理(講義)	学年・開講期	1年(前期)
担当教員	飯沼基司	時間数	2単位 30時間
目標	生命科学・医療技術の進歩は医療問題を複雑にしている。次々に開発される医療技術を社会がどのように受容すべきか。医療に関わる倫理はいかにあるべきかを考える。		
授業内容(概要)	生命の尊厳を理解し、医療従事者として、生命と医療に関わる倫理問題や重要性について理解を深めていく。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A、79~70点B、69~60点C(合格)とし、59点以下D(不合格)とする。		

回数	授業内容
1	はじめに ①「倫理」って何だろう? ②自己紹介ゲーム ③振り返り
2	第1章 なぜ医療倫理を学ぶのか ①伝統的な医の倫理から新しい医の倫理(医療倫理)へ
3	②医療従事者の基本的義務 ③患者中心の医療
4	④歯科医療に関する権利と義務、および歯科衛生士の社会的使命
5	第2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス ①医の倫理に関する規範および国際規範
6	②バイオエシックス(生命倫理学) 1. バイオエシックスとは何か 2. バイオエシックス誕生の背景/国際規範
7	③バイオエシックスに関わる問題 1. 生命の始まりに関わる倫理的問題
8	2. 生命の終わりに関わる問題
9	3. その他の問題 臓器移植/遺伝子医療/再生医療 ④臨床倫理学
10	第3章 インフォームド・コンセント ①インフォームド・コンセントとは何か
11	②インフォームド・コンセントの実際
12	③インフォームド・コンセントと患者中心の医療
13	第4章 研究と医療倫理 ①なぜ、研究で医療倫理が必要なのか ②倫理的配慮の要件
14	付章 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 ①医療現場における人の行動 ②患者の行動
15	③歯科医療従事者の行動 全体の振り返り

2023シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	生命科学(講義)	学年・開講期	1年(前期)
担当教員	宮脇和仁	時間数	2単位 30時間
目標	生物の特徴を、細胞、組織、生命の連続性、環境と反応、等の視点からとらえ、概要を把握することで、専門科目の学習の基礎を理解させる		
授業内容(概要)	細胞の構造と機能、遺伝子と遺伝、生命を構成する基本物質等に関する知識を修得し、生体の構造を理解する。		
教科書	「生物学」全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。		

回数	授業内容
1	1. 生命とは何か 生命の誕生
2	生命の変遷
3	2. 組織と細胞 細胞
4	細胞の一生と個体の成り立ち
5	細胞の一生と個体の成り立ち
6	3. 生命の連続 生殖
7	遺伝の法則1
8	遺伝の法則2
9	生命を作る仕組み
10	遺伝子を働かせる仕組み
11	発生の過程
12	発生の仕組み
13	4. 環境と動物の反応 刺激の需要と反応
14	内部環境を保つ仕組み
15	動物の行動と進化

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	臨床歯科総論(講義)	学年・開講期	1年 (前期)
担当教員	麻植 雅(実務経験者) 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	1単位 15時間
目標	I 歯科診療と歯科診療所 業務の理解 時間的な流れの中で歯科診療所の日常を理解する II 歯科臨床の専門分野を理解する		
授業内容 (概要)	歯科衛生業務の実践に必要な臨床における基礎的知識を理解する		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科臨床概論	医歯薬出版株式会社	
成績評価の基 準方法	・定期考査(60点)レポート(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。		

回数	授業内容
1	歯科診療とは ・ 歯科診療所(スタッフ・安全管理)
2	歯科診療所における業務 ・ ライフステージと歯科診療
3	診査・検査・前処置(1) ・ 診査・検査・前処置(2)
4	小児歯科 ・ 矯正歯科
5	口腔外科 ・ 歯科保存
6	歯周治療(1) ・ 歯周治療(2)
7	歯科補綴 ・ 歯科補綴(有床義歯)
8	障害者歯科・高齢者歯科

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	歯科予防処置論(講義)	学年・開講期	1年(前期)
担当教員	神田郁恵(実務経験者) 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	4単位 60時間
目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔をの健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術を及び態度を取得させる		
授業内容(概要)	歯科予防処置の概要を理解し、対象者の歯・口腔の健康状態を把握、う蝕予防処置・歯周病予防処置の基礎知識・技術を習得する		
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(60点)及び授業態度・提出物(40点)により評価する。 ・100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。 		

回数	授業内容
1	歯科予防処置論の概要
2	健康の概念
3	予防の概念
4	口腔の基礎知識①(口腔・口腔組織の構造)
5	②歯周組織
6	③歯冠と歯根の形態
7	④口腔の機能
8	口腔基礎知識確認テスト
9	う蝕と歯周病の基礎知識
10	う蝕
11	う蝕・歯周病
12	歯周病

回数	授業内容
13	う蝕・歯周病確認テスト
14	口腔内の観察①
15	口腔内の観察②
16	染め出し・エクスプローラー・プローブの使用法
17	プロービング・歯周ポケット
18	口腔内観察確認テスト
19	手用スケーラー①
20	手用スケーラー②
21	シャープニング
22	超音波スケーラー①
23	超音波スケーラー②
24	臨床における注意事項・メンテナンス
25	歯面研磨
26	PTC/PMTC
27	スケーリング～歯面研磨確認テスト
28	フッ化物の応用
29	ライフステージ別の予防処置
30	前期まとめ

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	情報リテラシー(講義)	学年・開講期	1年 (前期)
担当教員	波多野 忠士	時間数	2単位 30時間
目標	情報の授受に効果的なコンピュータの利用法を理解し、必要なデータや情報を有効活用するために、インターネットを利用した情報の収集、開示などに関する基本的知識、技能および態度を習得する。		
授業内容 (概要)	コンピュータの基本的操作・効果的な利用法を理解し、情報の収集、開示に関する基本的知識、技能を習得する。		
教科書	よくわかるマスターExcel365&2019対策テキスト&問題集		
成績評価の基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技による試験(途中で確認のための小テストを実施)(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする ・評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。 		

回数	授業内容
1	セルやセル範囲にデータの挿入、書式の設定、データをまとめ、管理する
2	
3	テーブルを作成、スタイルと設定オプションを管理。テーブルをフィルターし、並べ替える
4	
5	関数を使用して、データ集計、条件付きの計算を実行、書式を設定、文字列を変更する
6	
7	
8	グラフの作成、書式設定、オブジェクトを挿入し書式設定する
9	
10	模擬試験①
11	模擬試験②
12	模擬試験③
13	模擬試験④
14	模擬試験⑤
15	前期試験

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	口腔解剖学（講義）	学年・開講期	1年（前期）
担当教員	山本晃三・山路野由希子（実務経験者） 病院・歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	1単位15時間
目標	口腔領域の解剖学口腔機能についての知識を得る。		
授業内容 （概要）	口腔領域の解剖学的機能、解剖学的知識を習得し、口腔領域を系統的に理解する		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
成績評価の基 準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験および授業態度、小テストにより評価。 ・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上：A 70点以上80点未満：B 60点以上70点未満：C 60円未満：D とする。 		

回数	授業内容	担当
1	口腔とは	山本・山路野
2	頭蓋1	山本・山路野
3	頭蓋2	山本・山路野
4	口腔を形成する骨	山本・山路野
5	顔面筋	山本・山路野
6	咀嚼筋	山本・山路野
7	顎関節	山本・山路野
8	動脈系	山本・山路野
9	静脈系、リンパ系	山本・山路野
10	脳神経1(三叉神経)	山本・山路野
11	脳神経2	山本・山路野
12	頭頸部にある脊髄神経	山本・山路野
13	唾液腺	山本・山路野
14	咽頭と喉頭の構造	山本・山路野
15	まとめ(予備)	山本・山路野

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	歯牙解剖学	学年・開講期	1年（前期）
担当教員	山路野由希子（実務経験者） 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	1単位15時間
目標	歯科医療に従事する者として、その最も基礎的な知識である人の歯の表示法や記号、歯種鑑別、歯列と咬合の関連性、歯種別の歯の形態を学ぶ。また、スケッチ描画、歯型彫刻を通して、歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。		
授業内容（概要）	ヒトの歯の形態、歯の発生、歯の組織を理解し、歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。また、歯周組織との関連を理解する。スケッチ描画、歯型彫刻を通して、乳歯、永久歯の各歯牙の形態、機能の特徴を明確に理解する。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版		
成績評価の基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(60点)及び授業態度、小テスト(40点)により評価する。 ・100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60円未満:Dとする。 		

回数	授業内容	担当
1	歯の概論①(歯の機能、歯の種類と名称、歯式)	山路野
2	歯の概論②(歯の形態、歯の各部名称、根管の形態)	山路野
3	永久歯の形態的特徴(中切歯・側切歯・犬歯)	山路野
4	永久歯の形態的特徴(小臼歯・大臼歯)	山路野
5	乳歯の形態的特徴、特色のある歯の形態	山路野
6	歯牙デッサン・歯型彫刻演習	山路野
7	歯牙デッサン・歯型彫刻演習	山路野

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	歯科診療補助論Ⅰ（講義）	学年・開講期	1年（前期）
担当教員	中村 久美子（実務経験者） 元歯科医院歯科衛生士 現本校常勤教員	時間数	2単位 30時間
目標	歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解し、必要な知識・態度を習得する 歯科診療で用いられる主要歯科材料の種類・基礎的性質・使用法を習得する		
授業内容 （概要）	専門的な歯科診療の補助に必要な基礎的な知識・医療安全・歯科材料の特性・共同作業の概念を 学び、歯科診療補助の基礎的技術の習得を目指す		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社		
成績評価 の 基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(60点)及び授業態度(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。 		

回数	授業内容
1	歯科診療補助の概念
2	医療安全と感染予防・救命処置
3	歯科における感染予防・医療廃棄物
4	薬品・歯科材料の管理
5	滅菌・消毒
6	歯科診療の基礎知識
7	患者対応・受診の流れ
8	共同作業の概念・ポジショニング
9	器具の受け渡し
10	歯科領域における臨床検査
11	画像診断（エックス線撮影・口腔内撮影）
12	歯科材料① 印象材
13	歯科材料② 石膏
14	歯科材料③ 合着・接着
15	歯科材料④ 仮封・仮着・ワックス

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	歯科衛生学総論（講義）	学年・開講期	1年（前期）
担当教員	麻生清子（実務経験者） 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	2単位 30時間
目標	ライフステージを通じた歯や口腔の健康づくり、高齢者医療や介護現場からの歯科衛生士の要請を鑑み、他職種との連携も含め全体像を理解する		
授業内容 （概要）	歯科衛生業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を修得する態度及び理論的思考法の基礎を修得する。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論	医歯薬出版株式会社	
成績評価の 基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。		

回数	授業内容
1	歯科衛生学とは
2	歯科衛生士の歴史
3	歯科衛生活動のための理論
4	歯科衛生過程（1）
5	歯科衛生過程（2）
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務
7	リスクマネジメント
8	歯科衛生士と医療倫理
9	自己決定権の尊重・インフォームドコンセント
10	歯科衛生士の活動と組織
11	海外における歯科衛生士
12	社会におけるニーズと今後
13	歯科衛生士と関わる専門職
14	歯科衛生士法と歯科衛生業務
15	「考える歯科衛生士」

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	薬理学(講義)	学年・開講期	1年(中期)
担当教員	永井悠介・永井雅恵(実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	①国家試験合格. ②日常および歯科臨床で応用可能な薬理学的知識を習得する.		
授業内容(概要)	薬物の性質・作用・副作用等を理解し疾病の回復を促進する薬に関する基礎知識の習得及び、歯科治療に関する薬物の基礎知識を習得する		
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版		
成績評価の基準方法	・筆記試験(100%) 100点満点で80点以上A,79~70点B、69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	オリエンテーション・薬理学総論(Ⅰ)
2	薬理学総論(Ⅱ)
3	薬理学総論(Ⅲ)
4	薬理学総論(Ⅳ)
5	薬理学総論(Ⅴ)薬理学各論(一般薬理学)(Ⅰ)
6	薬理学各論(一般薬理学)(Ⅱ)
7	薬理学各論(一般薬理学)(Ⅱ)
8	薬理学各論(一般薬理学)(Ⅱ)
9	薬理学各論(一般薬理学)(Ⅱ)
10	薬理学各論(一般薬理学)(Ⅱ)
11	口腔薬理学(Ⅰ)
12	口腔薬理学(Ⅱ)
13	口腔薬理学(Ⅲ)
14	口腔薬理学(Ⅳ)
15	歯科薬理学(プリント配布のみ)・まとめ・国試について ・定期試験対策

2023シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	解剖学(講義)	学年・開講期	1年 (中期)
担当教員	紀 瑞成	時間数	2単位 30時間
目標	人体の基本構造と機能を理解し、専門である歯科衛生につなげる。		
授業内容 (概要)	人体の基本的構造・各部位の機能を理解し、歯科医療との関係性を学んでいく		
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織学・生理学 全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B,69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする 		

回数	授業内容
1	解剖学概論と運動器系1 (骨格)
2	運動器系2 (骨格と筋)
3	運動器系3 (筋)
4	消化器系1 (中空性器官～口腔から肛門まで)
5	消化器系2 (肝臓、胆嚢、膵臓)
6	循環器系1 (心臓、体循環、肺循環)
7	循環器系2 (動脈、静脈、リンパ管)
8	中枢神経系 (大脳、小脳、脳幹、脊髄)
9	末梢神経系 (脳神経、脊髄神経、自律神経)
10	呼吸器系 (気道と肺)
11	感覚器系1 (皮膚,視覚)
12	感覚器系2 (聴覚、味覚、嗅覚、体温)
13	泌尿器系 (腎臓、尿管、膀胱、尿道)
14	内分泌系 (下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎)
15	生殖器系 (精巣と精路、卵巣と子宮)

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	微生物学(講義)	学年・開講期	1年 (中期)
担当教員	小野利行(実務経験者) 歯科医院院長 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	微生物の理解を深め、疾病との関連を習得する		
授業内容(概要)	微生物の性質・特性を学び、感染、疾病との関わり、免疫について理解を深めていく		
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物学」		
成績評価の基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 100点満点で80点以上A,79~70点B,69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	1章 疾病と微生物 ①疾病と微生物 ②感染と感染症
2	2章 微生物の病原性 ①微生物の位置づけ ②細菌 1、細菌の性状と病原性 2、主な病原性細菌
3	2章 微生物の病原性 ③マイコプラズマ属~⑦ウイルス1、ウイルスの性状
4	2章 微生物の病原性 ⑦ウイルス2、歯科に関連するウイルスと感染症⑧その他の微生物(真菌・原虫)
5	3章 宿主防御機構と免疫 ①宿主防御機構
6	3章 宿主防御機構と免疫 ②免疫機構
7	3章 宿主防御機構と免疫 ③液性免疫 ④細胞性免疫
8	3章 宿主防御機構と免疫 ⑤アレルギー(過敏症)
9	4章 口腔微生物学 ①口腔細菌叢 ②デンタルプラーク
10	5章 口腔感染症 ①う蝕 ②歯内感染症 ③歯周病
11	5章 口腔感染症 ③歯周病(復習) ④その他の口腔感染症
12	6章 化学療法 ③歯周病(復習) ④その他の口腔感染症
13	7章 院内感染対策と滅菌・消毒
14	8章 細菌培養・顕微鏡観察 補講
15	まとめ, 試験対策

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校

歯科衛生学科

科目名	組織発生・生理学(講義)	学年・開講期	1年(中期)
担当教員	久保田浩三	時間数	2単位 30時間
目標	人体の器官を構築する組織、また、組織を構成する細胞の構造・配列・機能を学び、 命維持のための生理機能、病態生理について学ぶ		
授業内容 (概要)	人体の構造に関する基本的知識を習得し、細胞・組織の発生、各器官の機能を理解する		
教科書	歯科衛生学シリーズ 体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の 基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A, 79~70点B, 69~60点C(合格)、59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	組織発生学・生理学の概論
2	細胞 P12~21
3	上皮組織と支持組織 P21~30
4	染色体と減数分裂、精子と卵子の発生 P31~34、P34~36
5	受精と着床、胚葉の形成 P36~37、P37~39
6	胎児の成長と発育 P39~44
7	筋肉と運動、運動ニューロン P64~69、P80~83
8	消化・吸収。(消化酵素、P84~85)、胃・小腸・大腸 P97~108
9	循環。(血管の機能、血液、P109~122)、循環の生理 P129~140
10	感覚 P156~175
11	神経系の機能 ① 中枢、抹消 P179、P183~185
12	神経系の機能 ② 神経系の主な伝導路 P204~212
13	呼吸 P213、P225~233
14	排尿 腎p234~235、尿の生成 P238~245
15	ホメオスタシスを保つ仕組み (体温、P269~278、内分泌 P246)

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	口腔組織発生学・口腔生理学(講義)	学年・開講期	1年(中期)
担当教員	二ノ宮浩生・中川文敬(実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	・歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を習得する。ヒトの歯の形態、歯の発生、歯の組織を理解し、また歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。個々の歯や歯列の形態について、歯や口腔の形態を表現するための解剖学用語を的確に理解する。また、歯周組織との関連を理解する。『口腔組織・口腔生理学(新)』		
授業内容(概要)	歯・口腔とその周囲組織のしくみ・生理機能に関する基礎知識を習得し、口腔組織の発生・組成・形態を理解し、専門的用語の習得、歯周組織との関連性について理解を深めていく。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学、全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版		
成績評価の基準方法	・筆記試験(100%) ・100点満点で80点以上A、79～70点B、69～60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	歯と口腔の感覚(歯の感覚, 口腔粘膜の感覚)
2	味覚(味覚の役割, 感受性, 味蕾, 味覚の神経機構, 味盲)
3	嚥下と嘔吐
4	咬合と咀嚼・吸啜
5	発声(発声機構の概要, 声の生成, 言語音の形成, 歯・口腔の病態と発音)
6	歯の概論(機能、歯の種類と名称、歯の記号、歯式)
7	唾液(唾液腺, 唾液の分泌機構, 唾液の性状・成分と機能, 唾液と疾患)
8	永久歯の形態学的特徴
9	乳歯の形態学的特徴
10	歯と歯周組織の発生
11	歯と歯周組織の構造と機能(エナメル質、象牙質)
12	歯と歯周組織の構造と機能(セメント質、歯根膜、歯槽骨)
13	歯と歯周組織の構造と機能(歯肉)
14	まとめ, 試験対策
15	重要ポイントの確認

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	補綴学(講義)	学年・開講期	1年 (中期)
担当教員	二ノ宮浩生 (実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	・歯科臨床で応用可能な補綴学的知識を修得する		
授業内容 (概要)	・補綴治療に必要な検査や治療手順及び器材の使用法を習得する。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の 基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A、79～70点B、69点～60点C、(合格)とし59点以下D(不合格)とする。		

回数	授業内容
1	歯科補綴の概要
2	補綴歯科治療の基礎知識
3	補綴歯科治療における検査1
4	補綴歯科治療における検査2
5	クラウン・ブリッジ治療1
6	クラウン・ブリッジ治療2
7	クラウン・ブリッジ治療3
8	実技
9	有床義歯治療 全部床義歯
10	全部床義歯
11	部分床義歯
12	インプラント治療1
13	インプラント治療2
14	顎顔面補綴治療
15	器材の管理、技工士との連携

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	栄養と代謝(講義)	学年・開講期	1年(中期)
担当教員	谷野真弓	時間数	2単位 30時間
目標	生命現象が物質相互の化学反応により営まれていることを理解するとともに、健康の維持増進の基本となる栄養と食生活に関する知識を習得し、歯科衛生士としての栄養支援の基礎を形成する		
授業内容(概要)	生体を構成する様々な物質の特徴や代謝過程を学び、口腔領域の生化学の基礎知識を習得する。各栄養素の働きについて学び、食生活と健康との関係を理解することにより、現代の食生活の問題点を把握し、それぞれのライフステージにおいて的確な栄養支援が行えるように知識の習得に努める。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	・出席状況、・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B、69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	生体の構成要素・生体における化学反応
2	糖質と脂質の代謝
3	タンパク質とアミノ酸の代謝・生体における恒常性の維持
4	歯と歯周組織の生化学・硬組織の生化学
5	唾液の生化学・プラークの生化学
6	栄養の基礎知識 ①食生活と栄養 ②栄養素の消化・吸収
7	食事摂取基準
8	栄養素の働き ①糖質
9	栄養素の働き ②タンパク質
10	栄養素の働き ③脂質
11	栄養素の働き ④ビタミン ⑤ミネラル
12	食生活と健康 ⑥水 ⑦食物繊維
13	食生活と健康 ①国民の健康と栄養の現状 ②望ましい食生活
14	食べ物と健康 ③ライフステージ別の栄養と調理
15	食生活と健康 ①食品の成分と分類 ②食べ物の物性 総まとめ

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	人間関係論・心理学(講義)	学年・開講期	1年 (中期)
担当教員	長谷川美枝子	時間数	2単位 30時間
目標	口腔の保健を担うものとして、一般的な心理学の知識と、患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供する能力及び円滑な人間関係を保つ能力を修得する。		
授業内容 (概要)	自分を知り、他者を知る、行動と知覚、学習、記憶、思考の関係を概説でき、その人らしさ、賢さの心理、人と関わる心理、発達するところ、人と集うところ、健康なところ、カウンセリングのころ、思いを伝え合うところなど基本的な知識と考え方を修得する		
教科書	①歯科衛生学シリーズ「心理学」(全国歯科衛生士教育協議会 監修) ②「心理学のすべてがわかる本」(ナツメ社)		
成績評価の基準方法	・確認小テスト・定期考査(60点)及び平常点(40点)100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 100点満点で80点以上A,79~70点B,69点~60点C,(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授 業 内 容
1	はじめに 自分を知る・他者を知る
2	1章 見る・聞く・感じるころ
3	2章 学ぶ・覚えるころ
4	3章 やる気の心理
5	4章 喜怒哀楽のころ
6	5章 その人らしさの心理
7	6章 かしこさのの心理
8	7章 考えるころ
9	8章 発達するころ(1)
10	9章 発達するころ(2)
11	10章 人と関わる心理 11章 人と集うころ
12	12章 健康なころ
13	13章 カウンセリングのころ
14	14章 思いを伝え合うころ(1)
15	14章 思いを伝え合うころ(2)

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	歯科診療補助実習 I (実習)	学年・開講期	1年 (中期)
担当教員	中村久美子 神田郁恵 麻生清子(実務経験者) 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	2単位 60時間
目標	主要歯科材料の取り扱い方について学び、技術を習得する		
授業内容 (概要)	歯科診療補助論 I で修得した知識を相互実習等で技術の向上を図る		
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の基 準方法	・実技試験(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79～70点B,69点～60点C,(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	ブラッシング (セルフケア) の実技指導 (歯ブラシ・歯間ブラシ・フロス)
2	ブラッシング (セルフケア) の実技指導 (歯ブラシ・歯間ブラシ・フロス)
3	ブラッシング (相互) の実技指導 (歯ブラシ・歯間ブラシ・フロス)
4	機械的歯面清掃の相互実習
5	機械的歯面清掃の相互実習
6	アルギン酸印象練和・採得
7	アルギン酸印象練和・採得 ・模型作成
8	アルギン酸印象練和・採得 ・模型作成
9	アルギン酸印象練和・採得 ・模型作成
10	セメント練和 (各種類)
11	セメント練和 (各種類)
12	ラバーダム防湿のかけ方の実習
13	バキューウムテクニックの実習
14	バキューウムテクニックの実習
15	予防充填・仮封剤充填
16	予防充填・仮封剤充填

回数	授業内容
17	綿線巻・綿球づくり
18	スケーリング(手用)
19	スケーリング(手用)
20	スケーリング(手用)
21	スケーリング(手用)
22	スケーリング(超音波スケーラー)
23	スケーリング(超音波スケーラー)
24	スケーリング(超音波スケーラー)
25	スケーリング(エアースケーラー)
26	スケーリング(エアースケーラー)
27	シャープニング
28	シャープニング
29	ブラッシングテクニックと手用スケーラーの再確認
30	ブラッシングテクニックと手用スケーラーの再確認

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	保存修復・歯内療法学（講義）	学年・開講期	1年（中期）
担当教員	中川文敬（実務経験者） 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	・保存修復・歯内療法の基礎を学び、それぞれに関する理解を深め、診療補助の能力を修得する		
授業内容（概要）	保存修復・歯内療法に必要な治療手順、薬剤及び器具の使用法を習得する。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内療法 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
成績評価の基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79～70点B、69点～60点C、(合格)とし59点以下D(不合格)とする。		

回数	授業内容
1	保存修復の概論
2	保存修復概論
3	直接法修復（コンポジットレジン修復・セメント修復）
4	間接法修復（インレー及びアンレー修復）
5	合着材及び接着材・保存修復における歯科衛生士の役割
6	歯のホワイトニング（ブリーチング）
7	保存修復補足・まとめ
8	歯内療法の概論
9	歯内療法の概論
10	歯髄保存療法
11	歯髄の除去療法
12	根管治療
13	根管充填
14	外科的歯内療法・歯の外傷・歯内療法における安全対策・歯内療法における歯科衛生士
15	歯内療法の補足・まとめ

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	口腔健康・機能管理論(講義)	学年・開講期	2年(前期)
担当教員	石松公子(実務経験者) 元歯科医院歯科衛生士 現本校兼任教員 安東賢人(実務経験者)言語聴覚士	時間数	2単位 14時間
目標	歯科衛生士の役割は口腔領域の疾病対応のみならず摂食嚥下障害のある対象者にたいして多職種との連携・協働において最も望ましい支援について歯科衛生士の専門性をたかめる		
授業内容(概要)	①歯科衛生士は摂食機能療法(摂食嚥下リハビリテーション)を取り組み実施して評価ができるような知識が習得できるようにする また症例を展開できるようにする ②摂食嚥下障害者に関する制度の理解ができるようにする		
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版(医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・レポートの提出状況(40点)及び筆記試験(60点)により総合的に評価する。 ・100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。 		

回数	授業内容
1	嚥下のメカニズム(安東)
2	小児・成人の嚥下障害(安東)
3	摂食嚥下の評価(安東)
4	間接嚥下訓練(安東)
5	直接嚥下訓練(安東)
6	症状から見た嚥下訓練・対応(安東)
7	食事介助について(安東)
1	歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション /国試対策(解答、解説)
2	摂食嚥下リハビリテーションの実際と歯科衛生士の役割 /国試対策(解答、解説)
3	摂食嚥下リハビリテーションにおける口腔健康管理 /国試対策(解答、解説)
4	摂食嚥下障害者への口腔管理と制度の理解 /国試対策(解答、解説)
5	摂食嚥下の評価 /国試対策(解答、解説)
6	歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本・症例 /国試対策(解答、解説)
7	まとめ・試験対策

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

	国語(講義)	学年・開講期	2年(前期)
担当教員	富成碩甫	時間数	2単位 30時間
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み解く技術を身に付ける。 ・文章を書くための技術を身に付ける。 ・実用的な国語力を身に付ける。 ・語彙力を身に付ける。 		
授業内容(概要)	文章の構造を知り、要点を把握する。伝わる文章の書き方を習得することにより、社会人としてのビジネススキルを身に付ける。		
教科書	保健生態学 第3版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版		
成績評価の基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・レポートの提出状況(40点)及び筆記試験(60点)により総合的に評価する。 ・100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。 		
回数	授業内容		
1	文章の基本の形について。		
2	三段型の文章の読み書きについて		
3	四段型の文章の読み書きについて		
4	文章把握の基本について①		
5	文章把握の基本について②		
6	文章把握の基本について③		
7	文章の書き方の基本について①		
8	文章の書き方の基本について②		
9	文章の書き方の基本について③		
10	伝わる文章の構造について①		
11	伝わる文章の構造について②		
12	伝わる文章の構造について③		
13	伝わる文章の構造について④		
14	実用的な国語の基礎知識 《手紙、ビジネスメールの書き方》。		
15	実用的な国語の基礎知識 《公用文の書き方》。		

2023年 シラバス

藤華歯科衛生専門学校

歯科衛生学科

	麻植 雅（実務経験者） 元歯科医院歯科衛生士 現本校常勤教員	時間数	2単位 30時間
目標	食習慣・生活習慣を把握し問題点を理解する ライフステージにおける歯科衛生士の役割を理解する 食生活指導方法を学ぶ		
授業内容 （概要）	基本的栄養素の働きを理解し、現代の食生活・生活習慣の問題点を把握し、 歯科疾患と生活習慣病との関わりを学ぶ		
教科書 （概要）	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会 歯科医院に知って欲しい糖尿病のこと (西田 互著) 医歯薬出版株式会社		
成績評価 の 基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査及び受講態度により評価する ・筆記試験(80%),授業態度(20%)より評価。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60円未満:Dとする。 		
回数	授業内容		
1	栄養素とその働き		
2	食生活・食習慣の把握		
3	食品とう蝕誘発性 砂糖う蝕の関連性 シュガーコントロール		
4	う蝕予防のための食品摂取 咀嚼と食品		
5	ライフステージにおける歯科衛生士介入/妊婦期・新生児期		
6	幼児期・学童期		
7	青年期・成人期		
8	老年期		
9	歯科と糖尿病 1		
10	歯科と糖尿病 2		
11	歯周病と糖尿病		
12	歯科医院で注意すべき糖尿病患者の症状		
13	歯科における食生活指導の重要性		
14	喫煙による口腔への影響・喫煙者に対する指導		
15	まとめ		

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校

歯科衛生学科

科目名	衛生学／公衆衛生学(講義)	学年・開講期	2年(前)
担当教員	春山晃毅 山路野由希子	時間数	2単位 30時間
目標	健康と予防医学の概念および人間をとりまく自然的・社会的環境要因と健康との関係について理解を深める。		
授業内容(概要)	健康を左右する環境について学ぶ。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版		
成績評価の基準方法	・出席状況・レポートの提出状況(40点)及び筆記試験(60点)により総合的に評価する。 ・100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B、69点~60点C、(合格)とし59点以下D(不合格)とする		
授 業 内 容			
1	I 編 健康を左右する環境	1章 総論	
2		2章 疫学	
3		3章 人口	
4		4章 環境と健康	
5		5章 感染症	
6		6章 食品と健康	
7	I 編 健康に関わる地域の役割	1章 地域保健・公衆衛生	
8		2章 母子保健	
9		3章 学校保健	
10		4章 成人保健	
11		5章 産業保健	
12		6章 老人(高齢者)保健	
13		7章 精神保健	
14		8章 災害時の歯科保健	
15		9章 国際保健	

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
 歯科衛生学科

	保存修復・歯内療法学 (講義)	学年・開講期	2年 (前期)
担当教員	中川文敬・二ノ宮浩生 (実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼 任教員	時間数	2単位 30時間
目標	・保存修復・歯内療法の基本を学び、それぞれに関する理解を深め、診療補助の能力を修得する ・歯科臨床で応用可能な補綴学的知識を修得する		
授業内容 (概要)	保存修復・歯内療法に必要な治療手順、薬剤及び器具の使用法を習得する。 補綴治療に必要な検査や治療手順及び器材の使用法を習得する。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版		
成績評価の 基準方法	・出席状況・レポートの提出状況(40点)及び筆記試験(60点)により総合的に評価する。 ・100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。		

回数	授業内容
1	保存修復・歯内療法の概論 (中川)
2	歯科補綴概要、基礎知識(二ノ宮)
3	直接法修復(コンポジットレジン修復・セメント修復)(中川)
4	補綴装置の種類とその構造 補綴歯科治療の実際:検査・診断(二ノ宮)
5	間接法修復(インレー及びアンレー修復・合着材及び接着材・保存修復における歯科衛生士の役割 (中川)
6	クラウン・ブリッジ治療の実際:クラウン・ブリッジ(二ノ宮)
7	歯髄保存療法・歯髄の除去療法(中川)
8	有床義歯治療の実際(二ノ宮)
9	根管治療・根管充填(中川)
10	インプラント治療の実際(二ノ宮)
11	外科的歯内療法・葉の外傷・歯内療法における安全対策・歯内療法における歯科衛生士の役割(中川)
12	補綴歯科治療用いられる器材(二ノ宮)
13	補綴歯科治療に用いられる歯科技工(二ノ宮)
14	補足・まとめ(中川)
15	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割(二ノ宮)

2023シラバス

藤華歯科衛生専門学校
 歯科衛生学科

	高齢者・障害者歯科学(講義)	学年・開講期	2年(中期)
担当教員	安東俊介・木船敏郎(実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	1. 高齢者取り巻く環境、加齢に伴う心身機能の変化、高齢者に多い疾患について理解する。高齢者に対する口腔のケア、摂食・嚥下リハビリテーションについての知識を得る。 2. 障害者の概念を理解し、障害者の歯科臨床における行動調整法や歯科保健指導、摂食嚥下指導などの実践につながる基本的知識と技術についての知識を得る。		
授業内容(概要)	高齢者及び障害者歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。		
教科書	版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版		
成績評価の基準方法	・筆記試験(100%)により評価。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。		
回数	授業内容		
1	高齢者をとりまく社会と環境		4月13日安東
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患		4月20日安東
3	高齢者の状態の把握		4月27日安東
4	高齢者の口腔ケア		5月11日安東
5	高齢者の口腔ケア 2		5月16日安東
6	高齢者の摂食・嚥下リハビリテーション1		5月25日安東
7	高齢者の摂食・嚥下リハビリテーション2		6月1日安東
8	障害の概念		6月8日木船
9	歯科医療で特別な支援が必要な疾患		6月15日木船
10	障害者の歯科医療と行動調整		6月22日木船
11	障害者の健康支援と口腔衛生管理		6月29日木船
12	高齢者まとめ		7月6日安東
13	障害者のリスク評価と安全管理		7月13日木船
14	障害者の摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割		7月20日木船
15	地域における障害者歯科		7月27日木船

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校

歯科衛生学科

科目名	う蝕予防処置論（講義）	学年・開講期	2年（前）
担当教員	麻生清子（実務経験者） 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	2単位 30時間
目標	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な基礎知識、技術、及び態度を習得する		
授業内容（概要）	基礎知識を学び、対象者の評価と計画を立て、う蝕予防法の3つの大きな処置を説明・実施できるようにする		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社		
成績評価の基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・レポートの提出状況(40点)及び筆記試験(60点)により総合的に評価する。 ・100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。 		

回数	授業内容
1	I 総説編 ①う蝕予防処置法序説（う蝕予防処置法とは・範囲と種類・歯科衛生士の役割・注意点）
2	②う蝕の知識（う蝕とは・プラークのなりたちと齲蝕・う蝕の早期診断の意義）
3	③歯および唾液とフッ化物応用の知識（歯およびエナメル質表層に知識・唾液の知識）
4	④う蝕活動性（リスク）試験（う蝕活動性（リスク）試験試験とは・種類には・成績） ⑤う蝕抑制効果の評価およびスクリーニング手法
5	II 実習編 ①う蝕予防処置法のアウトライン
6	②う蝕予防処置法の基礎実習
7	②う蝕予防処置法の基礎実習
8	③フッ化物溶液歯面塗布法 ④フッ化物ゲル（ゼリー）歯面塗布法
9	⑤フッ化ジアミン銀溶液塗布法 ⑥小窩裂溝填塞法 ⑦早期う蝕検出
10	⑧う蝕活動性（リスク）試験（唾液流出測定・シーエーティ21バフ・シーエーティ21バフテスト）
11	⑧う蝕活動性(リスク)試験（歯の健康度テスト）⑨う蝕抑制効果評価とスクリーニング指標算出
12	⑩う蝕予防処置法の臨床（フッ化物ゲル（ゼリー）歯面塗布法フッ化ジアミン銀溶液塗布法小窩裂溝填塞法）
13	⑩う蝕予防処置法の臨床（フッ化物ゲル（ゼリー）歯面塗布法フッ化ジアミン銀溶液塗布法小窩裂溝填塞法）
14	III 集団応用編 ①う蝕予防処置集団応用の考え方
15	②う蝕予防処置集団応用実習

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	口腔外科・麻酔学(講義)	学年・開講期	2年(前期)
担当教員	柳澤繁孝(実務経験者) 元病院口腔外科歯科医 現本校専任教員	時間数	2単位 30時間
目標	口腔外科学・麻酔学口腔に発生する疾患の病態と治療について学ぶ 病態:先天異常、炎症、感染症、外傷、発育異常、腫瘍、感覚障害、顎かせゆ、粘膜異常 対象組織:上・下顎骨、歯槽骨、歯、歯肉、舌、口腔粘膜、咀嚼筋		
授業内容(概要)	口腔外科治療や歯科麻酔の補助のために必要な治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する		
教科書	歯科衛生学シリーズ 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	・出席状況・レポートの提出状況(40点)及び筆記試験(60点)により総合的に評価する。 ・100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。		

回数	授業内容	
1	口腔外科の概要	診療範囲と扱う疾患を説明できる。キーワード「QOL、インフォームドコンセント」
2	全身疾患の理解	歯科治療を行う上で注意すべき全身疾患を理解し、口腔疾患と全身疾患の関係を説明できる。キーワード「高血圧症、虚血性心疾患、糖尿病」
3	歯と顎の先天異常と発育異常	小帯付着異常、歯の萌出異常、顎発育異常、顎変形症、唇顎口蓋裂による障害と治療の流れを説明できる。キーワード「口唇口蓋裂、構音障害、審美障害」
4	額顔面の損傷 口腔粘膜疾患 炎症疾患	歯の脱落・損傷・顎骨骨折・裂創・気腫・異物迷入 キーワード「裂創、歯牙破折、顎骨骨折、顎間固定」口腔粘膜疾患を列挙し、原因と治療法を説明できる。 キーワード「アフタ性口内炎・白板症、前癌病変」 歯性炎症の原因および進展経路と治療を説明できる。 キーワード「炎症の五兆候・蜂窩織炎・顎骨骨髓炎」 キーワード「炎症の五兆校、蜂窩織炎、顎骨骨髓炎」
5	嚢胞性疾患 (顎骨、軟組織)	顎骨嚢胞と軟組織嚢胞を列挙し、特徴と治療法を説明できる。 キーワード「歯根嚢胞、ガマ種」
6	腫瘍性疾患Ⅰ 良性・歯源性腫瘍	エナメル上皮腫や顎口腔の良性腫瘍の特徴と医療法について説明できる。
7	腫瘍性疾患Ⅱ 悪性腫瘍	顎口腔の悪性腫瘍の特徴と治療法について説明できる。 キーワード「扁平上皮癌、TNM分類、転移」
8	顎関節疾患・唾液腺疾患	顎関節症、顎関節脱臼、顎関節強直症、開口障害、唾石症、ガマ種、シェーグレン症候群 キーワード「顎関節症、習慣性顎関節脱臼、唾石症」
9	神経疾患	三叉神経痛と顔面神経麻痺の症状について説明できる。 キーワード「ベル麻痺、三叉神経痛、味覚障害」
10	基礎疾患、血液疾患と出血性素因	循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、肝炎他 凝固異常、血友病、白血病、血小板減少症
11	外来診療 創傷治癒	医療面接、検査、清潔・不潔(滅菌・消毒、スタンダードプリコーション) 創傷の治癒過程
12	麻酔と応急処置	局所麻酔法の種類や精神鎮静法について理解し、全身的偶発症への対応と一次救命処置を説明できる。キーワード「血管収縮薬、バイタルサイン、蘇生法」
13	切開・縫合・止血処置、創傷処置、消炎手術	縫合、止血、を理解し、必要な器材について説明できる。 キーワード「止血法、瘢痕、切開、ドレナージ」外来手術器具について
14	口腔外科小手術 拔牙・歯科インプラント	拔牙の適応症・手術拔牙の適応症、術式、合併症を理解し、必要な説明ができる。 キーワード「ドライソケット」、術後出血、腫脹、顎関節脱臼
15	医療用語の知識 まとめ	歯科治療・周術期歯科治療と関連する疾患の知識

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校

歯科衛生学科

科目名	歯科診療補助論Ⅱ(講義)	学年・開講期	2年(前期)
担当教員	神田 郁恵(実務経験者) 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	2単位 30時間
目標	歯科診療所における歯科衛生士の役割を理解し、必要な基礎的知識・態度を習得する。 歯科診療に用いられる主要歯科器材の種類・基本的性質・使用法を習得する。応用編		
授業内容(概要)	様々なライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術を習得する		
教科書	歯科衛生学シリーズ歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社		
成績評価の基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A、79~70点B、69~60点C(合格)とし、59点以下D(不合格)とする。		

回数	授業内容
1	ラバーダム防湿・歯肉圧排
2	診療補助①保存修復
3	仮封・仮着/ホワイトニング
4	診療補助②歯内療法
5	診療補助③歯周外科
6	診療補助④補綴治療
7	診療補助⑤口腔外科
8	診療補助⑥歯科麻酔
9	診療補助⑦矯正治療
10	診療補助⑧小児歯科
11	全身疾患とその対応①
12	全身疾患とその対応②
13	周術期における歯科診療
14	訪問診療
15	まとめ

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校

歯科衛生学科

科目名	小児歯科・歯科矯正	学年・開講期	2年（中期）
担当教員	河野 裕・小椋幹記	時間数	15
目標	小児歯科学: 歯科衛生士として小児歯科学、小児歯科医療の知識を十分に修得する。 歯科矯正: 歯科衛生業務に必要な不正咬合の症状および治療法を理解するために、矯正歯科治療の基礎的事項、実際および歯科衛生士の役割について説明できる。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学、咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正学 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
成績評価	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79～70点B,69～60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	歯科矯正: 矯正歯科治療の概要; 小椋幹記
2	小児歯科学: 小児歯科治療の概念; 河野 裕
3	歯科矯正: 矯正歯科治療に関する基礎知識1; 小椋幹記
4	歯科矯正: 矯正歯科治療に関する基礎知識2; 小椋幹記
5	小児歯科学: 小児歯科治療に関する基礎知識1; 河野 裕
6	小児歯科学: 小児歯科治療に関する基礎知識2; 河野 裕
7	歯科矯正: 矯正歯科治療に関する基礎知識3; 小椋幹記
8	小児歯科学: 小児歯科治療の実際1; 河野 裕
9	歯科矯正: 矯正歯科治療の実際1; 小椋幹記
10	小児歯科学: 小児歯科治療の実際2; 河野 裕
11	歯科矯正: 矯正歯科治療の実際2; 小椋幹記
12	小児歯科学: 小児歯科臨床における歯科衛生士の役割1; 河野 裕
13	歯科矯正: 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割1; 小椋幹記
14	小児歯科学: 小児歯科臨床における歯科衛生士の役割2; 河野 裕
15	歯科矯正: 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割2; 小椋幹記

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	歯科衛生統計学(講義)	学年・開講期	2年 中期
担当教員	麻植雅(実務経験者) 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	2単位 30時間
目標	歯科衛生活動に必要な保健医療情報の収集と取捨選択から、収集したデータの処理と解析する。また、目的に応じたステップを踏んだアプローチを習得し、科学的な根拠に基づいた歯科衛生活動を身につける。		
授業内容(概要)	個人及び集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を修得する。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学(歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3) 医歯薬出版株式会社		
成績評価の基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B,69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容		
1・2	1.保健情報と保健統計	保健情報の種類	・EBMIについて
		国家統計調査	・学校保健統計調査
3・4	2.保健情報と疫学	疫学総論	
		調査方法の分類	練習問題
5	3.保健情報の分析手順	標本抽出	練習問題
6・7	4.歯科疾患の指数	数量化と指数	
		う蝕の指数	練習問題
8・9		歯周疾患歯数①	練習問題
		歯周疾患歯数②	練習問題
10・11	5.口腔清掃状態の指数	口腔清掃指数①	練習問題
		口腔清掃指数②	練習問題
12	6.不正咬合と歯列不正の指数	練習問題	
13	7.フッ素症指数	練習問題	
14・15	8.保健統計の方法		
	9.保健統計学グループ発表		

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	歯科保健指導総論(講義)	学年・開講期	2年 (中)
担当教員	麻生清子(実務経験者) 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	2単位 30時間
目標	口腔の衛生を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識、技術を理解する		
授業内容 (概要)	歯科保健指導の概要を理解し、歯科衛生過程を学び、対象者に応じたコミュニケーションがとれ、情報収集方法を習得し、ライフステージにおける歯科衛生介入をする。		
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の 基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B,69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	歯科保健指導論の概要①歯科保健指導の定義②歯科保健指導論の考え方
2	③歯科保健指導の法的な位置づけ④健康の概念・⑤予防の概念
3	歯科保健指導の基礎知識 ①口腔の機能②摂食嚥の仕組み
4	歯科保健指導実施のための基礎知識 ①行動変容の要素とそのステップ
5	歯科衛生過程の進め方 ①歯科衛生過程の基本的な考え方
6	②歯科衛生過程の6つの要素
7	③歯科衛生過程の展開例
8	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 ①患者からの情報収集
9	②口腔内の情報収集 ③分析のためのデータ
10	ライフステージにおける歯科衛生介入 ①妊産婦期
11	②新生時期・乳児期 ③幼児期 ④学齢期
12	⑤青年期 ⑥成人期 ⑦老年期
13	⑧要介護者
14	⑨障害者
15	中期学習の重要なポイント指導

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校

歯科衛生学科

科目名	歯科診療補助実習Ⅱ(実習)	学年・開講期	2年(中)
担当教員	神田郁恵・麻生清子・中村久美子 (実務経験者) 元歯科医院歯科衛生士 現本校専任教員	時間数	2単位 30時間
目標	基礎実習を充実させ、即、臨床に活かせる実技の習得		
授業内容 (概要)	歯科診療補助論Ⅱ・歯科予防処置論・歯科保健指導で修得した知識を相互実習等で技術の向上を図る		
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の 基準方法	・実技試験(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B,69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	歯科予防処置(う蝕予防処置) ラバーダム防湿の相互実習
2	第2章 う蝕予防処置法の基礎実習 ①唾液の消化作用確認実習 ②スクロールとキシリトールの理解 ③エナメル質の脱灰(酸処理)観察実習
3	第3章 フッ化物溶液・ゲル・フォーム歯面塗布法①フッ化物溶液・ゲル・フォームの味の確認実習 ②フッ化物歯面塗布の相互実習(トレー法・イオン導入法・綿球塗布法)
4	第5章 フッ化ジアミン銀溶液塗布法 ①フッ化ジアミン銀の抜去歯への塗布実習 ②フッ化ジアミン銀の手指及び布への着色・脱色の実習
5	第6章 小窩裂溝填塞法 ①酸処理面の観察実習 ②小窩裂溝填塞歯の断面の観察実習 ③小窩裂溝填塞法の相互実習(光重合型小窩裂溝填塞材)
6	第8章 う蝕活動性(リスク)試験 ①唾液流出量測定 ②シーエーティ21パフ ③ シーエーティ21Test
7	歯科予防処置(歯周病予防処置) ①プロービング相互実習
8	②手用スクレーラーによるSRPの相互実習
9	③手用スクレーラーによるSRPの相互実習
10	④超音波スクレーラー・エアースクレーラーによる歯石除去の相互実習
11	⑤超音波スクレーラー・エアースクレーラーによる歯石除去の相互実習
12	⑥染め出し・歯面研磨相互実習
13	⑦スクレーラーのシャープニング
14	⑧スクレーラーのシャープニング

回数	授業内容
15	歯科保健指導1回目 ①口腔衛生管理に関わる指導(ブラッシング・その他の清掃方法・洗口剤) ②口腔機能管理に関わる指導(口腔機能の発達に関連する指導・口腔機能の低下に関連する指導)
16	歯科保健指導2回目 ③口腔衛生に関わる指導(ブラッシング・その他の清掃方法・洗口剤) ④口腔機能管理に関わる指導(口腔機能の発達に関連する指導・口腔機能の低下に関連する指導)
17	⑤生活習慣病に関わる指導(非感染疾患・喫煙者相互実習)
18	⑥歯科保健指導用媒体作成
19	⑦歯科保健指導用媒体作成
20	歯科診療補助実習 ①口腔内写真撮影の相互実習
21	②口腔内写真撮影の相互実習
22	③X線撮影
23	④保存修復時の診療補助 ⑤歯内療法時の診療補助 ⑥歯周外科時の診療補助 ⑦口腔外科時の診療補助
24	⑧成形歯冠修復の補助(即時重合レジンを使ってTEKの作成・コンポジットレジン充填・隣接面あり)
25	⑨仮封・仮着の補助(水硬性・ストップング軟化の仕方) ⑩ワックスの扱い方 ⑪モデリングコンパウンドの扱い方
26	⑫歯肉圧排の仕方 ⑬バキューム操作
27	⑭綿栓巻・セメント練和
28	⑮アルジネート印象材練和と印象採得
29	⑯車椅子の扱い方と移動
30	総合演習

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	歯周病予防処置論（歯周学）（講義）	学年・開講期	2年（中期）
担当教員	小原正嗣・高橋弘子(実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	歯周組織の解剖や機能、疾患の病因・分類・全身との関連を理解する。さらには歯周治療における歯科衛生士の役割を理解すること。		
授業内容 （概要）	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、及び態度を習得する。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学第2版（医歯薬出版）		
成績評価の 基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験（100％）により評価。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・評定は、評価点80点以上：A 70点以上80点未満：B 60点以上70点未満：C 60点未満：Dとする。 		

回数	授業内容
1	オリエンテーション 歯周治療とは 歯周組織の構造と機能（小原）
2	歯周病の分類と原因 ①（小原）
3	歯周病の分類と原因 ②（小原）
4	歯周治療における歯科衛生士の役割 ①（高橋）
5	歯周治療の進め方（小原）
6	歯周病の検査（小原）
7	歯周治療における歯科衛生士の役割 ②（高橋）
8	歯周基本治療（小原）
9	歯周外科治療 ①（小原）
10	歯周治療における歯科衛生士の役割 ③（高橋）
11	歯周外科治療 ②（小原）
12	歯周治療としての口腔機能回復・メンテナンス（小原）
13	歯周治療における歯科衛生士の役割 ④（高橋）
14	予備日 まとめ 試験対策⑤（高橋）
15	定期試験 対策（小原）

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	病理学・口腔病理学(講義)	学年・開講期	2年 (中期)
担当教員	加藤裕之・山路野由希子 (実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	全身的な疾病と健康の基本知識を習得する。歯・口腔とその周囲組織の異常、病変、病態を理解する。口腔保健と全身の関わりを学ぶ。		
授業内容 (概要)	口腔領域に発生する疾病の発生機序、病理学的特徴を理解することで、疾病の概念、病因と病態の基本的知識を理解する		
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版		
成績評価の基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B,69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容	担当
1	病理学序論と病因論	加藤
2	遺伝性疾患と奇形	山路野
3	循環障害	加藤
4	代謝障害と退行性病変	加藤
5	増殖と修復	山路野
6	炎症と免疫応答異常	加藤
7	腫瘍	加藤
8	歯の発育異常・損傷と着色・付着物	山路野
9	う蝕及び象牙質・歯髄複合体の病態	山路野
10	歯周組織の病態	山路野
11	口腔粘膜の病変	山路野
12	口腔領域の嚢胞と腫瘍	山路野
13	口腔癌	山路野
14	顎骨及び唾液腺の病変	山路野
15	口腔領域の奇形・口腔組織の加齢変化	山路野

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	救急救命処置・歯科放射線学(講義)	学年・開講期	2年(中期)
担当教員	山路野由希子(実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・常に患者の全身状態を観察し緊急時に迅速、適切な対応知識を身につける ・歯科用エックス線撮影の知識を持ち、歯科医師指導の下での撮影補助技術を身につける 		
授業内容(概要)	バイタルサインとその測定法、1次救命、AEDの取り扱い等を習得することにより、緊急時に歯科衛生士として対応できるスキルを身につける		
教科書	AHAガイドライン2020に沿った一次救命処置 看護学大意 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B,69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする 		

回数	授業内容
1	歯科衛生士が知っておくべき看護技術の総論
2	①バイタルサインについて ②測定方法
3	歯科衛生士に必要な看護実務の総論
4	救急時の看護 ①一次救命処置(chapter1)確認と救急の出動要請まで
5	②AED(自動体外式除細動器(chapter3)
6	③神経性ショック(chapter2) 成人が一人で行い一次救命処置
7	④過換気症候群(chapter4) 小児・乳児の心肺蘇生術
8	救急救命処置 確認まとめ
9	1章 歯科医療と放射線 2章 エックス線画像の形成
10	3章 歯科におけるエックス線検査
11	4章 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割
12	5章 パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割
13	6章 写真処理と画像保管の実際
14	7章 放射線治療と口腔管理
15	歯科放射線・試験対策

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	医事法学（講義）	学年・開講期	2年（中期）
担当教員	小山敬晴	時間数	1単位 15時間
目標	歯科衛生士として、また、市民として必要な法的素養を身に着ける。 国家試験合格を目指す。		
授業内容 （概要）	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生の在り方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な基礎的知識を習得する。		
教科書	歯科衛生士と法律・制度 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
成績評価の 基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79～70点B,69～60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	法の基礎～法の体系・立憲主義
2	診療契約に関する法～契約・損害賠償・成年後見制度
3	歯科衛生士に関する法律～ 歯科衛生士法・歯科医師法等
4	歯科医療に関する法律～歯科口腔保健法・歯科技工士法等
5	薬事関連法～医薬品医療機器等法・大麻取締法等
6	社会保障～社会保険・医療保険・介護保険等
7	社会福祉～生活保護・児童福祉・障害者福祉等
8	地域保健～地域保健法・健康増進法・学校保健安全法等

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校

歯科衛生学科

科目名	カウンセリング技法(講義)	学年・開講期	2年(中期)
担当教員	長谷川 美枝子	時間数	2単位 30時間
目標	患者の口腔ケアを管理・持続させていくためには、口腔内の症状をみるだけでなく、患者が抱えているさまざまな気持ちや思い、さらに、患者自身が抱える問題を理解することが大切である。その手段として歯科医療臨床場面に必要な心理療法と技法を理解し、コミュニケーションスキルを高めることを目標とする。		
授業内容(概要)	歯科医療臨床場面に必要な心理療法と技法を理解し、医療現場での患者を支援するためのコミュニケーションスキルを習得する		
教科書	資料配付		
成績評価の基準方法	・課題プリント、確認小テスト、定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A、79～70点B、69点～60点C、(合格)とし59点以下D(不合格)とする。		

回数	授業内容	
1	I 人間の心とは何か	①「心」の定義 ②フロイトのパーソナリティ構造論
2		③人間の心の動きや状態 ④欲求不満と防衛(適応)規制
3		⑤カタルシス ⑥ストレスとコーピング ⑦タイプAとタイプB
4		⑥適応障害 ⑦気分障害 ⑧歯科心身症 ⑨PTSD
5	II 心理アセスメント	①問題の要因と心理アセスメント ②心理アセスメントの種類
6	III さまざまな心理アセスメント	①行動観察法 ②面接法
7	IV さまざまな心理療法と技法	①心理療法とカウンセリング ②カウンセリング・マインド
8		③ラポール ④傾聴(その1) ⑤転移 ⑥助けると支援する
9		⑦事例 ⑧心理療法の3つの流れ ⑨面接法 ⑩精神分析
10		⑪来談者中心療法 ⑫行動療法 ⑬認知行動療法
11		⑭症例 -恐怖症-
12	V アサーション	①アサーションとは ②アサーションの重要性
13		③自己表現の3つのタイプ ④演習
14	VI 積極的傾聴	①傾聴(その2) ②明確化 ③フィードバック ④沈黙の意味
15	VII 質問への応答	①質問の意味を理解する ②質問に応じて

2023 シラバス

藤華歯科衛生専門学校
歯科衛生学科

科目名	口腔衛生学(講義)	学年・開講期	2年(中期)
担当教員	生野 貴裕 (実務経験者) 歯科医院歯科医 本校兼任教員	時間数	2単位 30時間
目標	少子高齢化による人口構成の変化、寝たきり高齢者や長期入院患者の増加に対応できる口腔の健康と予防について学ぶ		
授業内容(概要)	口腔の健康と予防、歯科疾患の疫学、総合的な予防の概念をりかいすることで、ライフステージごとの口腔保健管理を指導できるスキルを身に着ける		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
成績評価の基準方法	・定期考査(60点)及び平常点(40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 ・100点満点で80点以上A,79~70点B,69~60点C(合格)とし59点以下D(不合格)とする		

回数	授業内容
1	1章 総論 ①歯・口腔の健康と予防
2	②歯・口腔の健康
3	③歯・口腔の付着物・沈着物
4	2章 口腔清掃 ①口腔清掃の意義②口腔清掃法 ③人工的清掃法の分類と用具
5	④不適切な口腔清掃による為害作用 ⑤歯磨剤と洗口液・洗口剤
6	3章 歯科疾患の疫学 ①う蝕の疫学 ②歯周疾患の疫学 ③その他の疫学
7	4章 う蝕の予防 ①う蝕発生のメカニズム ②う蝕の発生要因
8	③う蝕活動性 ④う蝕の予防法
9	5章 フッ化物によるう蝕予防 ①我が国のフッ化物応用 ②フッ化物の一般性状と用語 ③人間生態系におけるフッ化物 ④フッ化物摂取量とその基準 ⑤フッ素の代謝 ⑥フッ化物の毒性
10	⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法
11	⑧フッ化物のう蝕予防メカニズム⑨ライフステージに応じたフッ化物応用法
12	6章 歯周病の予防
13	7章 その他の疾患・異常の予防
14	8章 ライフステージごとの口腔保健管理
15	全体のまとめ、試験対策